

防災を「学ぶ、体験する、考える」みんなのイベント

ぼうさいこくたい

防災推進国民大会 2017

プログラム

今年は
仙台で
開催

「大規模災害に備える ～みんなの連携が力になる防災～」

● 地域における連携を深める ● 防災について学ぶ ● 誰もが参加する防災

会議棟

テーマセッション (P1-3)
団体別セッション (P1-3)
ブース展示 (P5-6)
ポスターセッション (P5-6)
・大ホール
・2F 桜1
・2F 桜2
・2F 桜3
・2F 桜4
・2F ホワイエ
・2F 小会議室4
・2F 小会議室5

展示棟

テーマセッション (P1・4)
団体別セッション (P1・4)
ブース展示 (P7-8)
ポスターセッション (P7-8)
・会議室3
・会議室4
・廊下

展示棟前

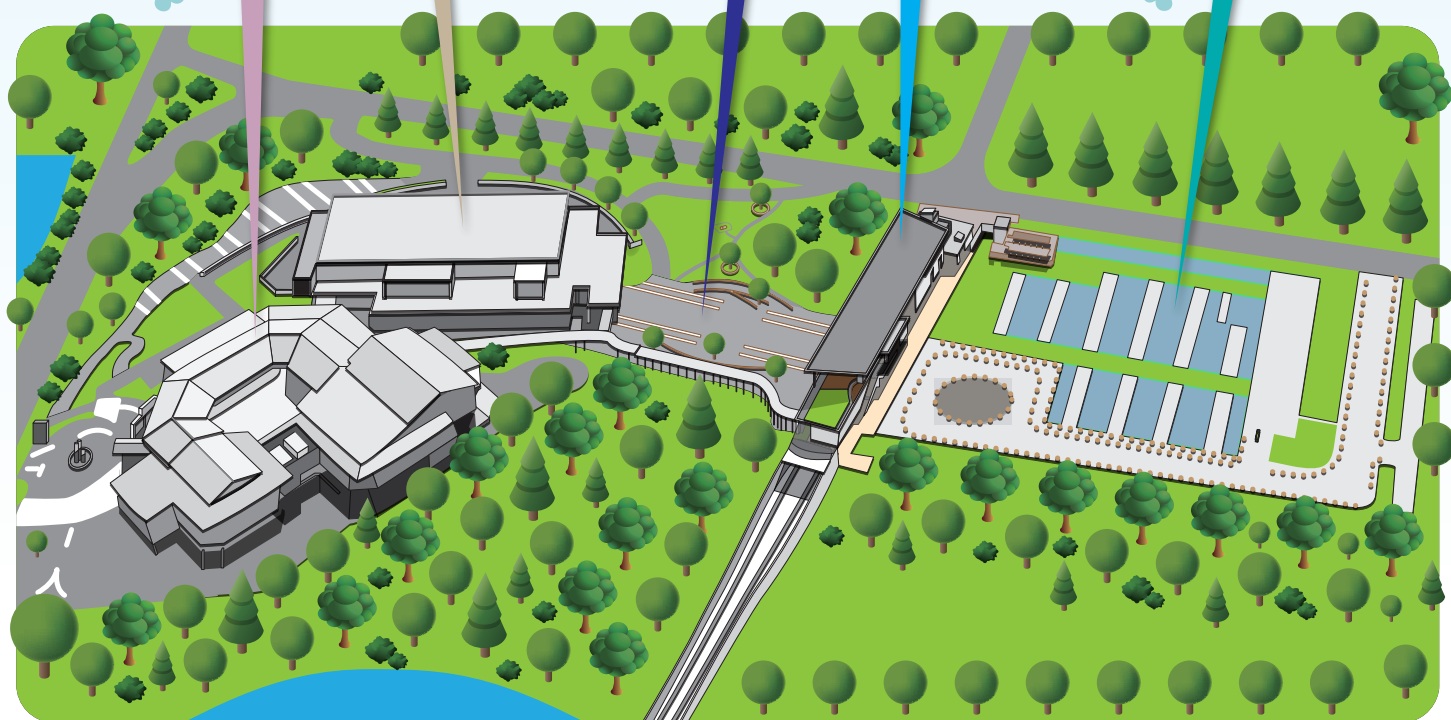
屋外ワークショップ
・アンケートテント
・屋外テントA (P9)
・屋外テントB (P9)
・屋外テントC (P9)
・屋外テントD (P10)

せんだい 青葉山交流広場

屋外展示
・屋外展示A (P9)
・屋外展示B (P9)
・屋外展示C (P9)
・屋外展示D (P9)

国際センター駅

せんだい防災パビリオン (P10)



平成29年

参加・入場
無料

日時: 11月26日(日) ~ 27日(月) 両日とも10:00~17:00

会場: 仙台国際センター / せんだい青葉山交流広場 / 国際センター駅

主催: 防災推進国民大会 2017 実行委員会[内閣府(防災担当) / 防災推進協議会 / 防災推進国民会議]

<http://bosai-kokutai.jp/>

ぼうさいこくたい

検索



テーマ・団体別セッションタイムスケジュール

テーマセッション 団体別セッション

11月26日 (日)

		10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
会議棟 1F	大ホール	10:00 ~ 10:15 オープニング	10:15 ~ 12:00 ハイレベル・ パネルディスカッション 「大規模災害に備える連携」	世界防災フォーラム/防災ダボス会議@仙台2017					
会議棟 2F	橘				12:30 ~ 14:00 あの時地区防災計画が あれば・・・	14:15 ~ 15:45 リスクガバナンス ～大規模災害を乗り切る～		16:00 ~ 17:30 NPO・ボランティアセッション ～地域における連携を進め、 災害支援の裾野を広げる～	
	萩					14:15 ~ 16:00 東北スペシャルセッション ～Build Back Better よりよい復興～		世界防災フォーラム/ 防災ダボス会議 @仙台2017	
	桜1			11:30 ~ 13:00 衛星情報・地理情報と 防災イノベーション	13:00 ~ 15:00 衛星情報・地理情報を 防災に生かそう		15:15 ~ 17:00 大規模災害にどう備えるか		
	桜2				12:30 ~ 14:00 保険・共済をはじめとした 個人・企業の備え	14:15 ~ 15:45 防災教育これまでとこれから ～防災教育と地域の融合、 好取組みと課題～		16:00 ~ 17:30 防災教育の過去、現在、未来	
	小会議室4				13:20 ~ 14:40 でこの原理を活用した 救出活動方法の実演と 体験トレーニング (なでしこ危機管理SAT)		15:00 ~ 17:00 TEAM防災ジャパン オンラインミーティング<昼の部> (ワークショップ P10参照)		
展示棟 2F	会議室3				12:40 ~ 13:50 リレートーク 「どう備える？ 備蓄」	14:15 ~ 15:45 災害時のトイレの確保・管理		16:00 ~ 17:30 地域はもっと強くなる ～多様な主体による 防災の現場～	
	会議室4		10:30 ~ 11:45 食料備蓄で 「みんなで減災」	12:00 ~ 13:20 震災の記憶を伝え、 災害を防ぐための 大学生と地域の連携		13:40 ~ 15:00 東日本大震災・ 市民セクターの果たした 役割とこれからの展開	15:10 ~ 16:50 事業継続普及セミナー		

11月27日 (月)

		10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
会議棟 1F	大ホール	世界防災フォーラム/防災ダボス会議@仙台2017					14:30 ~ 16:00 クロージングセッション		
会議棟 2F	橘	10:00 ~ 11:45 会社が安心で地域も安心 (中小企業向け BCPの基本を学ぶ)		12:00 ~ 14:00 日本防災産業会議の活動					
	萩	世界防災フォーラム/防災ダボス会議@仙台2017							
	桜1	世界防災フォーラム/防災ダボス会議@仙台2017							
	桜2	世界防災フォーラム/防災ダボス会議@仙台2017							
展示棟 2F	会議室3		10:30 ~ 11:30 仙台市地域防災 リーダー(SBL)の 活動について	12:10 ~ 13:50 地震研究最前線 いま何が分かって何を伝えられるか、 まだ何が分かっていないのか					
	会議室4		10:05 ~ 11:55 すべての福祉施設が 「福祉防災計画」作成を！	12:05 ~ 13:55 東日本大震災・原子力災害 からの教訓 ～大規模複合災害 を通して防災を考える～					

11月26日(日)

10:00~12:00

オープニングセッション

英語同時通訳あり

主催:防災推進国民大会2017実行委員会、世界防災フォーラム実行委員会

「大規模災害に備える～みんなの連携が力になる防災～」をテーマに開催する「ぼうさいこくたい2017」、そのキックオフとして、南海トラフ地震など想定される大規模災害にいかに備えるか、そのためになぜ防災に取り組む主体間の連携が必要なのか、連携することでどんな効果生まれるかなど、東日本大震災や熊本地震など過去の災害の教訓をもとに、各界を代表する国内外のパネリストが議論します。

開会宣言

10:00~10:03

小此木 八郎 内閣府特命担当大臣(防災)

主催挨拶

10:03~10:15

近衛 忠輝 防災推進協議会会長・防災推進国民会議議長(日本赤十字社社長)
里見 進 世界防災フォーラム実行委員会会長(東北大学総長)
村井 嘉浩 宮城県知事
郡 和子 仙台市長

ハイレベル・パネルディスカッション「大規模災害に備える連携」

10:15~12:00

ファシリテータ 今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所所長

パネリスト 秋本 敏文 日本消防協会会長・防災推進国民会議副議長
山内 隆司 日本経済団体連合会副会長(大成建設株式会社 代表取締役会長)
ロルフ・アルター 前OECD公共ガバナンス局長
ロバート・グラッサー 国連国際防災戦略事務局 国連事務総長特別代表
米澤 健 内閣府大臣官房審議官

11月27日(月)

14:30~16:00

クロージングセッション

主催:防災推進国民大会2017実行委員会

2日間、計26セッションの総まとめとして、大会の小テーマ「地域における連携を深める」「防災について学ぶ」「誰もが参加する防災」を代表する各セッションからのメッセージを集めます。そして、防災に取り組む主体が将来の大規模災害に備えて連携するための指針として「仙台ぼうさいこくたい憲章」(案)を提案します。

防災推進国民大会2017の振り返りと今後の展望

14:30~15:50

モデレーター 林 春男 国立研究法人 防災科学技術研究所 理事長

パネリスト 山澤 将人 日本赤十字社 救護・福祉部長
栗田 暢之 レスキューストックヤード代表理事
鈴木 毅 (一社)日本損害保険協会 常務理事
加藤 孝明 東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター 准教授

閉会挨拶

15:50~16:00

藤本 章 仙台市副市長
佐谷 説子 内閣府政策統括官(防災担当)付参事官

テーマ・団体別セッションプログラム

会議棟

2F 橘	11月26日(日)	12:30～14:00	テーマセッション
------	-----------	-------------	----------

あの時地区防災計画があれば・・・ ●地域における連携を深める

■主催：内閣府（防災担当） ■ファシリテータ：加藤 孝明（東京大学 生産技術研究所 准教授）
■パネリスト：健屋 一（跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 教授）／阪本 真由美（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授）／佐藤 健（東北大学災害科学国際研究所教授）

近年、熊本地震や九州北部豪雨災害等、想定外の災害が頻発しています。「まさか自分の住んでいる場所で・・・準備しなくても、家の中にいれば大丈夫だろう。」自然災害の脅威に対する不安は年々高まるばかりです。もしもの災害が発生してしまったその時、「地区防災計画」があればどうであったのか、各アドバイザーをお招きし、パネルディスカッションを行います。

2F 橘	11月26日(日)	14:15～15:45	テーマセッション
------	-----------	-------------	----------

リスクガバナンス～大規模災害を乗り切る～ ●防災について学ぶ

■主催：内閣府（防災担当） ■モデレーター：河田 恵昭（関西大学理事・社会安全学部・社会安全研究センター長・特別任命教授） ■パネリスト：越村 俊一（東北大学災害科学国際研究所 教授）／平田 直（東京大学地震研究所 地震予知研究センター長・教授）／尾崎 正直（高知県知事）／ロルフ・アルター（前OECD公共ガバナンス局長） ■挨拶：廣瀬 昌由（内閣府政策統括官（防災担当）付参事官）

大規模災害を乗り切るには、国民一人一人が災害リスクを正しく理解し、行政機関等と協働で災害に備える必要がある。本セッションでは、我が国の災害リスクとそれを回避するための対策状況を紹介しますとともに、個人、地域コミュニティ、企業、行政機関等の更なる連携の手法について、海外の事例を紹介しつつ議論を行う。

2F 橘	11月26日(日)	16:00～17:30	テーマセッション
------	-----------	-------------	----------

NPO・ボランティアセッション ●地域における連携を深める
～地域における連携を進め、災害支援の裾野を広げる～

■主催：（特活）全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOD） ■ファシリテータ：菅 磨志保（関西大学 社会安全学部 准教授） ■パネリスト：室崎 益輝（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 研究科長・教授）／栗田 暢之（レスキューストックヤード代表理事）／明城 徹也（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOD）事務局長）／白土 直樹（日本赤十字社 救護・福祉部次長）／牟田 真也（日本青年会議所 防災大国日本確立委員会委員長）／中板 育美（公益社団法人日本看護協会 常任理事）／荻上 健太郎（日本財団経営企画部 部長（兼 災害支援チームリーダー））／大久保 孝信（金山市 市民生活部長）／園崎 秀治（社会福祉法人 全国社会福祉協議会 地域福祉部全国ボランティア・市民活動振興センター副部長）

本地震では、様々な被災者支援が行われた一方で、中長期的な支援の面では、行政や支援団体間の連携・協働ができたかなどの課題が残った。過去の災害の教訓を振り返りつつ、今後予測される大規模災害や豪雨災害に備え、被災者支援における新たな支援の担い手の発掘・育成や関係者間の連携・協働の在り方を議論する。

2F 橘	11月27日(月)	10:00～11:45	団体別セッション
------	-----------	-------------	----------

会社が安心で地域も安心 ●地域における連携を深める
（中小企業向け、BCPの基本を学ぶ）

■主催：MS&ADインシュアランスグループ ■発表：松本 康男（中小企業庁 経営安定対策室長）／白石 由（仙台商工会議所 総務管理部 管理グループ課長） ■講義：山口 修（インターリスク総研 事業継続マネジメントグループ グループ長） ■パネリスト：星野 豊（株式会社オйлプラントナトリ 常務取締役）／白出 雄太（株式会社 白謙蒲鉾店 常務取締役 総合管理本部本部長）／鈴木 文也（宮城県経済商工観光部 中小企業支援室長）

地震・風水害の頻発する現在、万一の事態における損害の最小化や、中核事業の早期復旧のための具体的な計画であるBCPIはますます重要になっています。BCPの準備ができていれば、大幅な減益や業務停止、企業の倒産などの事態を避けることができたケースもあります。会社を持ち帰って取り組みを始められる、BCPの基本を学びます。

2F 橘	11月27日(月)	12:00～14:00	テーマセッション
------	-----------	-------------	----------

日本防災産業会議の活動 ●誰もに参加する防災

■主催：日本防災産業会議 ■発表：磯邊 浩宣（富士通 政策渉外室 シニアマネージャー）／谷川 清次（積水ハウス 総合住宅研究所 構造・防災研究開発グループ グループリーダー） 飛嶋 順子（インターリスク総研 リスクマネジメント第三部 事業継続マネジメントグループ） ■モデレーター：防災科学技術研究所 ■パネリスト：日本防災産業会議 会員企業 他

日本防災産業会議メンバーを中心に、企業が通常行っている防災活動や過去の災害に対する企業の取組内容を紹介し、企業活動について啓発を図るとともに、地域貢献に対する考え方について討議する。

2F 萩	11月26日(日)	14:15～16:00	テーマセッション
------	-----------	-------------	----------

東北スペシャルセッション～ Build Back Better よりよい復興～

■主催：東北大学（災害科学国際研究所） ■モデレーター：丸谷 浩明（東北大学災害科学国際研究所 教授） ■パネリスト：櫻井 雅之（宮城県土木部長）／ジョー・シャウヤー（国連開発計画（UNDP）／グウェンドリン・パン（国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）東アジア地域事務所長）／佐藤 典生（東京海上日動 仙台支店長）／宮本 弘（みやぎ生活協同組合 代表理事・理事長）／石塚 直樹（みやぎ連携復興センター 代表理事）

仙台行動枠組みでも重視されているBuild Back Better（よりよい復興）について、東日本大震災からの復興や世界の事例から成功のカギを共有し、世界に発信することを目的に開催します。官民学産が連携した多様な主体の取組の重要性や、日本各地や世界各国は東北とどのような連携ができるかなどを議論します。

2F 桜1	11月26日(日)	11:30～13:00	団体別セッション
-------	-----------	-------------	----------

衛星情報・地理情報と防災イノベーション ●防災について学ぶ

■主催：日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会、防災学術連携体 ■挨拶：廣瀬 典昭（防災学術連携体 代表幹事） ■趣旨説明：和田 章（防災減災・災害復興に関する学術連携委員会 委員長） ■スピーカー：伊東 明彦（日本リモートセンシング学会）／宇根 寛（国土地理院）／遠藤 宏之（GIS NEXT編集部）／早坂 忠裕（東北大学大学院理学研究科）／山里 平（気象研究所火山研究部長）／檜垣 大助（弘前大学）／眞瀬 智彦（岩手医科大学） ■司会：塚田 幸広（防災学術連携体 事務局長）

人工衛星は、昼夜を問わず、地球に関する膨大なデータを取得し続けている。人工衛星によるデータは、精度を高めつつあり、防災・減災、災害復興の幅広い分野に活用され始めている。本シンポジウムでは、防災学術連携体の各学会から、衛星情報・地理情報に関する現状と将来計画や利用事例を発表する。

2F 桜1	11月26日(日)	13:00～15:00	テーマセッション
-------	-----------	-------------	----------

衛星情報・地理情報を防災に生かそう ●防災について学ぶ

■主催：日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会、防災学術連携体 ■挨拶：大西 隆（前日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長） ■趣旨説明：米田 雅子（日本学術会議会員、土木工学・建築学委員長、慶應義塾大学特任教授） ■コーディネータ：藤井 良一（情報システム研究機構長、日本学術会議会員、地球惑星科学委員会副委員長） ■パネリスト：館 和夫（宇宙航空研究開発機構 宇宙利用統括）／村上 広史（国土地理院長）／福井 廣祐（徳島県政策監）／高橋 幸弘（日本地球惑星科学連合 宇宙惑星科学セクションプレジデント、北海道大学教授）／玉川 英則（地理情報システム学会会長、首都大学東京 教授）／島村 秀樹（日本リモートセンシング学会副会長、（株）パソコ中央事業部 取締役） ■司会：田村 和夫（日本学術会議連携会員、防災学術連携体事務局長、千葉工業大学教授）

人工衛星は、昼夜を問わず地球に関する膨大なデータを取得し続けており、防災・減災、災害復興の幅広い分野に活用され始めている。
本セッションでは、衛星情報の防災分野での利用事例やイノベーションな活用方法を紹介するとともに、地方自治体との連携の可能性、今後の未知の分野とのコラボレーションの可能性を模索する。

2F 桜1	11月26日(日)	15:15～17:00	テーマセッション
-------	-----------	-------------	----------

大規模災害にどう備えるか ●防災について学ぶ

■主催：日本消防協会 ■コーディネーター：秋本 敏文（日本消防協会会長） ■パネラー：杉本 達治（総務省消防庁 国民保護・防災部長）／藤田 司（気象庁 仙台管区気象台気象防災部長）／山内 伸介（宮城県 危機管理監）／佐々木 英夫（仙台市 危機管理監）／田中 淳（東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター長・教授）／日野 宗門（消防庁 消防大学校 客員教授）／室崎 益輝（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科長・教授）

さまざまな災害・事故が発生しているが、特に大規模な災害発生の際に、住民の生命を守り、被害をできる限り軽減するためにどう対応すべきかについて、総務省消防庁、気象庁、宮城県、仙台市の防災責任者及び有識者の方々に意見交換をしていただき、具体的な対策実施にむすびつけることをめざすものである。

2F 桜2	11月26日(日)	12:30～14:00	テーマセッション
-------	-----------	-------------	----------

保険・共済をはじめとした個人・企業の備え ●誰もに参加する防災

■主催：内閣府（防災担当） ■コーディネーター：田中 淳（東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター長・教授） ■パネリスト：佐藤 主光（一橋大学 教授）／武田 真一（河北新報社 論説委員）／稲垣 文彦（中越防災安全推進機構 業務執行理事）／竹下 愛実（NHK仙台 気象キャスター）

災害への備えは自助の取組が何よりも重要です。そこで保険・共済も含めた個人・企業が実施すべき災害への備えをテーマに、被災現場の第一線でご活躍された報道機関、復興支援団体、気象キャスターの方々の生の声や、大学教授による保険・共済の重要性などをお伝えし、皆様が備えを始めるきっかけをお届けします。

2F 桜2	11月26日(日)	14:15～15:45	団体別セッション
-------	-----------	-------------	----------

防災教育これまでとこれから ●誰もに参加する防災
～防災教育と地域の融合、好取組みと課題～

■主催：（一社）日本損害保険協会 ■コーディネーター：谷原 和恵（日本テレビ放送網NNNDキュメントーフプロデューサー） ■アドバイザー：室崎 益輝（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科長・教授） ■パネリスト：佐藤 健（東北大学 災害科学国際研究所教授）／吉門 直子（文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 安全教育調査官）／宇田川 智弘（（一社）日本損害保険協会 業務企画部長）

「ぼうさい探検隊」の取組みが15年目を迎えるにあたり、「子ども向けまち歩きワークショップ型の防災教育」の効果と課題から今後あるべき防災教育の姿を示唆するとともに、防災教育を地域防災力向上につなげるための世代間交流と取組みのあり方について、好取組み事例なども紹介しながら議論を進めていきます。

2F 桜2	11月26日(日)	16:00～17:30	テーマセッション
-------	-----------	-------------	----------

防災教育の過去、現在、未来 ●防災について学ぶ

■主催：防災科学技術研究所 ■司会：平田 直（東京大学地震研究所 地震予知研究センター長・教授、防災教育普及協会 会長） ■講演者：河田 恵昭（人と防災未来センター長 関西大学 社会安全研究センター長・特別任命教授）／渡邊 正樹（東京学芸大学教授 防災教育普及協会 副会長）／吉門 直子（文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 安全教育調査官）／林 春男（防災科学技術研究所 理事長 防災教育チャレンジプラン 実行委員長）

国連防災世界会議から2年半、東日本大震災から6年余が経過し、学習指導要領が改定されるという状況のなかで、防災教育全体を俯瞰し、「防災教育チャレンジプラン」、「ぼうさい甲子園」等の取り組みと連携した上で今までの歩みと現状をふまえ、今後の課題を明らかにし、あるべき方向を議論します。

2F 小会議室4	11月26日(日)	13:20～14:40	団体別セッション
----------	-----------	-------------	----------

てこの原理を活用した救出活動方法の実演と体験トレーニング（なでしこ危機管理SAT） ●防災について学ぶ

■主催：一般財団法人危機管理教育&演習センター ■スピーカー：細坪 信二（一般財団法人危機管理教育&演習センター 理事長）／平吾 かつり（なでしこ危機管理スペシャルウェアネスチーム（SAT））

大規模災害において、消防、医療機関が各地の現場に手が回らない中、自らで救出救護できる知識とスキルを身につけるため、女性が中心となって結成された「なでしこ危機管理SAT」がてこの原理を活用した救出活動方法を実演するとともに、参加者の方々に体験していただき他地域で活動の輪を広めたいと思います。

テーマ・団体別セッションプログラム

展示棟

会議室3	11月26日(日)	12:40～13:50	団体別セッション
リレートーク「どう備える? 備蓄」 ●防災について学ぶ			
■主催: TEAM防災ジャパン(内閣府) ■パネリスト: 清水 友和(農林水産省 食料安全保障専門官) / 佐々木 寿晴(東松島市 防災課課長) / 守 真弓(日本災害食学会 事務局局長) / 佐藤 美嶺(ママ防災士) / 佐藤 翔輔(東北大学 災害科学国際研究所) ■アドバイザー: 中川 和之(時事通信社 解説委員)			
「まなべる いかせる つながれる」をキャッチコピーに、防災に関するあらゆる情報を集約したポータルサイト「TEAM防災ジャパン」。その人気コンテンツが、現場で活躍する人が毎日登場するリレー寄稿です。そこに登場した人々を中心に、政府や自治体の方と一緒に「備蓄」をテーマに役に立つ情報をリレーで語ります。			

会議室3	11月26日(日)	14:15～15:45	テーマセッション
災害時のトイレの確保・管理 ●誰もに参加する防災			
■主催: 内閣府(防災担当) ■コーディネーター: 川上 一郎(内閣府政策統括官(防災担当) 付参事官) ■パネリスト: 河村 浩(学校のトイレ研究会 事務局長) / 菅原 えりさ(東京医療保健大学 教授) / 宇田川 真之(人と防災未来センター 研究主幹) / 石川 永子(横浜市立大学 准教授)			

災害時にトイレを使用できることが、被災地の衛生対策や被災者の心理ストレス軽減に強い影響を与えることに鑑み、家庭での携帯トイレの備蓄や、避難所でのトイレの劣悪な環境が改善に向け議論していく。

会議室3	11月26日(日)	16:00～17:30	テーマセッション
地域はもっと強くなれる ～多様な主体による防災の現場～ ●誰もに参加する防災			
■主催: 内閣府(防災担当) ■コーディネーター: 加藤 孝明(東京大学 生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター 准教授) ■司会: 山口 勝(NHK文化放送研究所メディア研究部 主任研究員) ■パネリスト: 浅野 幸子(減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表) / 鍵屋 一(跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 教授) / 大野 曜(男女共同参画と災害・復興ネットワーク 事務局局長) / 田中 宏和(四日市市役所 危機管理監危機管理室 主幹) ■挨拶: 佐倉 説子(内閣府政策統括官(防災担当) 付参事官)			

被災後の被害を削減し、事前防災に取組む際、昨今の人口減少、高齢単身世帯の増加、新しいライフスタイルの出現、貧困、地域離れ等が進んでいることを認識することが必要です。本セッションでは、住民が多様な現実や課題を抱えていることを踏まえた取組みを促し、地域がよりよい防災を実現できることを目指します。

会議室3	11月27日(月)	10:30～11:30	団体別セッション
仙台市地域防災リーダー(SBL)の活動について ●地域における連携を深める			
■主催: 仙台市(危機管理室 減災推進課) ■コーディネーター: 佐藤 健(東北大学災害科学国際研究所 教授) ■パネリスト: 仙台市地域防災リーダー / 仙台市地震防災アドバイザー			
仙台市では、自主防災活動を活性化する取り組みとして、仙台市地域防災リーダー(SBL)養成・支援事業を行っております。その中で地域での具体的な取り組み事例を紹介し、今後の課題などについて話し合います。			

会議室3	11月27日(月)	12:10～13:50	団体別セッション
地震研究最前線 いま何が分かって何を伝えられるか、まだ何が分かっていないのか ●防災について学ぶ			
■主催: (公社)日本地震学会 ■パネリスト: 山岡 耕春(名古屋大学 教授) / 青井 真(防災科学技術研究所) / 松澤 暢(東北大学大学院 教授) ■司会: 中川 和之(時事通信社 解説委員)			
地震学研究者を中心とした公益法人の学術団体で、会員には学校教員や行政職員、マスコミ関係者もいます。三陸の被災地などで、住民セミナーを実施してきました。防災こくたいでは、東日本大震災を起こした地震について、分かったこと、分かっていないことを解説し、大幅に拡充した海底観測に期待することも紹介します。			



東北大学 課外・ボランティア活動支援センター



みやぎ生協・日本生協連



(一社)日本損害保険協会

会議室4	11月26日(日)	10:30～11:45	団体別セッション
食料備蓄で「みんなで減災」 ●誰もに参加する防災			
■主催: みやぎ生協・日本生協連 ■スピーカー: 砂金 亜紀子(みやぎ生協 理事) / 高村 敦子(みやぎ生協福祉・文化活動事務局統括)			

震災に対して、いろいろな備え、準備の仕方がありますが、大事なことは、いざという時のためみんなが食料などを備え続けること。普段のくらしの中に備える習慣を無理なく入れるローリングストック法(普段から少し多めに食材を買っておき、使ったら新しく買い足すことで一定量の食料を家に備蓄する方法)を提案します。

会議室4	11月26日(日)	12:00～13:20	団体別セッション
震災の記憶を伝え、 災害を防ぐための大学生と地域の連携 ●地域における連携を深める			
■主催: 東北大学 課外・ボランティア活動支援センター			

震災の記憶の風化を防ぎ、地域と連携して防災に取り組むことは被災地の学生ボランティアにとって重要なテーマである。このセッションでは東北大学と熊本県立大学の学生が日頃の活動と地域との連携について報告し、学生が地域でどのような役割を果たすべきかについて、地域住民の方々も交えてディスカッションを行う。

会議室4	11月26日(日)	13:40～15:00	団体別セッション
東日本大震災・市民セクターの果たした 役割とこれからの展開 ●防災について学ぶ			
■主催: 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN) ■スピーカー: 長澤 恵美子(一般社団法人日本経済団体連合会 教育・CSR本部) / 松田 曜子(震災がつなぐ全国ネットワーク 共同代表)			

東日本大震災では、様々なボランティア団体、市民活動団体、NPO、企業等の民間組織が、被災者支援のために取り組みました。これまで取り組んできたことの成果と課題をふりかえり、今後の大規模災害に向けてどのような取り組みが必要なのか、ワークショップ形式で参加者同士が交流し、話し合う機会にします。

会議室4	11月26日(日)	15:10～16:50	団体別セッション
事業継続普及セミナー ●防災について学ぶ			
■主催: 特定非営利活動法人事業継続推進機構 ■コーディネーター: 谷原 和憲(日本テレビ報道局・チーフプロデューサー) ■パネリスト: 細坪 信二(特定非営利活動法人危機管理対策機構 事務局局長) / 吉田 浩一(株式会社ローソン コンプライアンス・リスク統括室 兼情報セキュリティ統括室室長) / 新沼 茂幸(ヤマニ醤油株式会社 代表取締役) / 丸谷 浩明(東北大学 災害科学国際研究所 教授) / 伊藤 毅(特定非営利活動法人事業継続推進機構 副理事長)			

地震を想定して現地復旧をベースとしたBCPを策定した企業が多く、内閣府 事業継続ガイドライン第三版で改正された代替戦略を踏まえた事業継続戦略の構築の必要性を含めた内容が浸透していない現状と実例を踏まえて、これからの事業継続(BC)の取組みと実効性のある事業継続(BC)の普及啓発する。

会議室4	11月27日(月)	10:05～11:55	団体別セッション
すべての福祉施設が「福祉防災計画」作成を! ●地域における連携を深める			
■主催: 一般社団法人福祉防災コミュニティ協会 ■パネルディスカッション: 鍵屋 一(跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 教授) / 横内康行(副理事長・東京セラブセンター事務局長) / 石塚由江(理事・防災士・防災アドバイザー) ■講演: 鍵屋 一(跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 教授)			

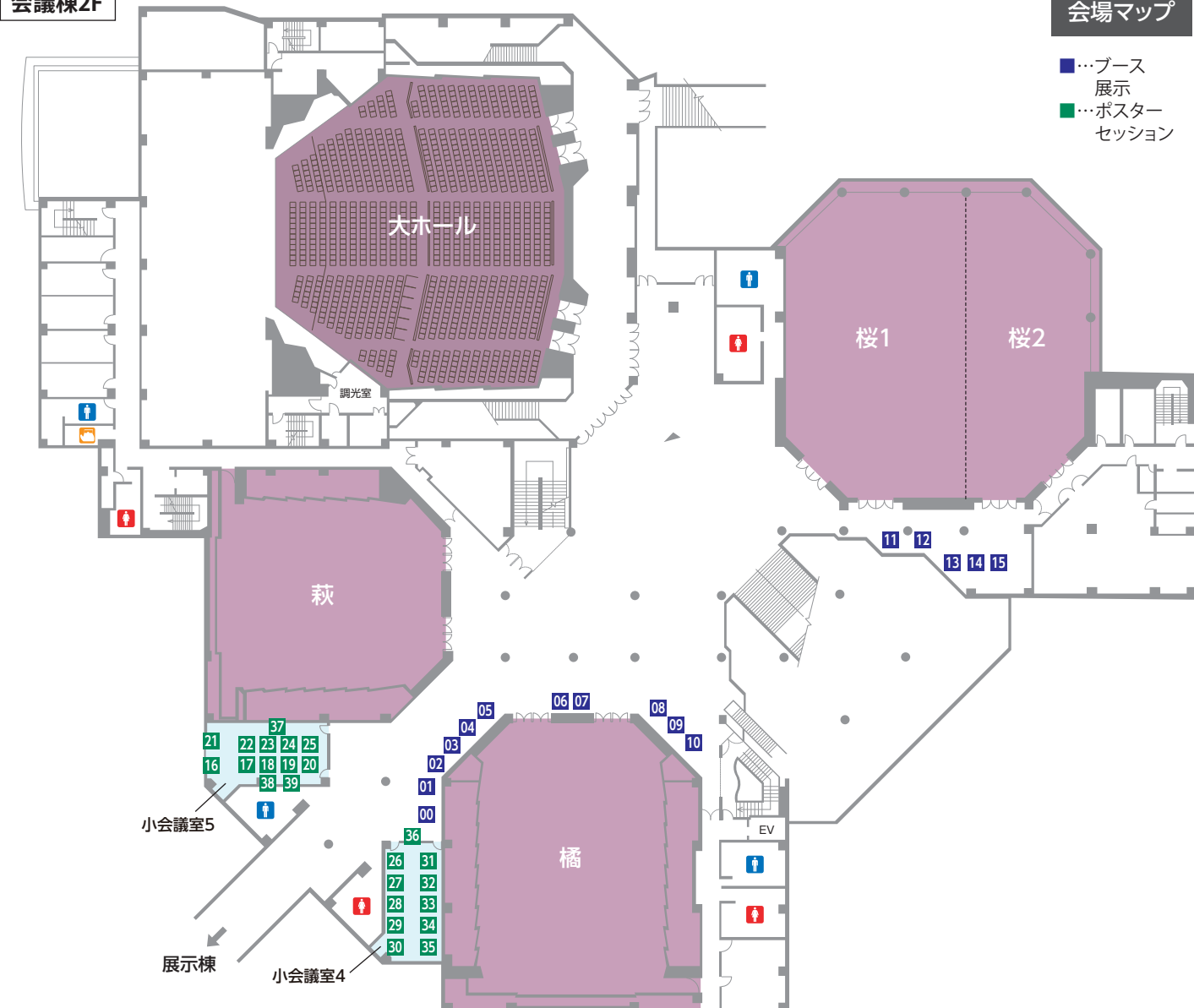
福祉施設で考えられてきた災害対応の多くは「災害が起きたら避難する」という段階であったが、実際には「福祉利用者の安全な避難」「避難先での福祉サービスの継続」「地域貢献・連携」などの対応が迫られる。このセッションでは、「福祉防災計画」策定の基礎を学びと共にその意義をお伝えします。

会議室4	11月27日(月)	12:05～13:55	団体別セッション
東日本大震災・原子力災害からの教訓 ～大規模複合災害を通して防災を考える～ ●防災について学ぶ			

■主催: 国立大学法人福島大学つくしまふくしま未来支援センター ■パネリスト: 山川 充夫(研究代表・帝京大学・教授) / 高木 亨(熊本学園大学 准教授) / 大瀬 健嗣(福島大学 特任准教授) / 初澤 敏生(センター長 教授) / 吉田 樹(福島大学 准教授) / 三村 悟(JICA) / 山崎 庸貴(ふくしま連携復興センター)

「3.11東日本大震災・原子力災害からの教訓」～大規模複合災害を通して防災を考える～東日本大震災から6年8ヵ月が経過する現在も約5万7千人の避難者が県内外で長期避難生活を余儀なくされています。被災者・被災地の支援活動を通じて得られた成果を共有し、災害に備える防災・減災について参加者と考えます。

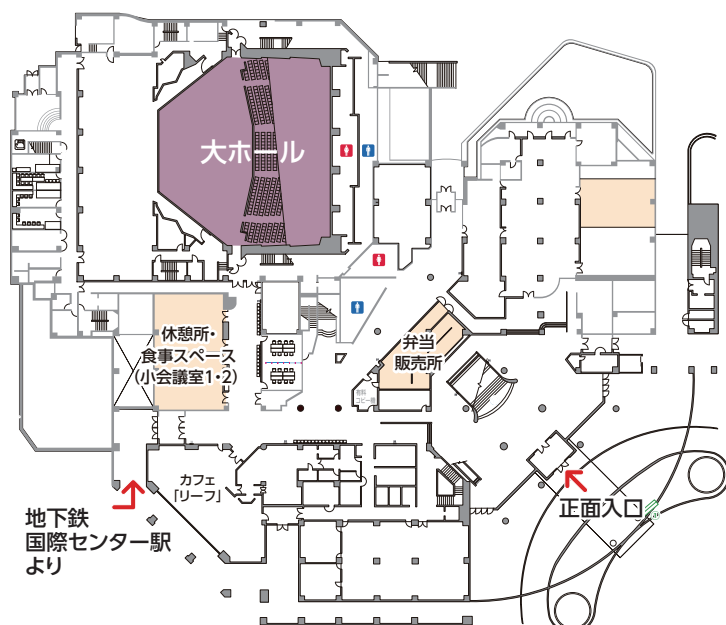
会議棟2F



会場マップ

- …ブース
展示
- …ポスター
セッション

会議棟1F



会00

終日展示

●防災について学ぶ

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
「阪神・淡路大震災の経験と教訓を伝える災害ミュージアム」

当センターは、阪神・淡路大震災の経験と教訓、防災・減災の大切さを未来と世界へ発信する災害ミュージアムです。1995年1月17日午前5時46分に発生した大地震と、この震災で起こったことを誰にでもわかりやすく伝えるときともに、実践的な防災研究や防災人材育成を推進しています。

会01

終日展示

●防災について学ぶ

国連国際防災戦略事務局 (UNISDR)
「Global Efforts on Disaster Risk Reduction - 防災に関するグローバルな取り組み -」
国連の防災担当部局として2000年に発足。自然災害による被害・損失の減少、災害リスクの軽減を目指し、国際防災協力の枠組み構築、調整のための触媒的役割を果たしています。仙台防災枠組の実施推進など、多くのパートナー機関と共に各国の防災政策実施を支援しているUNISDRのグローバルな取り組みについて紹介します。www.unisdr.org

会01

終日展示

●防災について学ぶ

国際復興支援プラットフォーム (IRP)
「Build Back Better(より良い復興)」に関する経験と教訓を発信
大規模災害からの「Build Back Better(より良い復興)」を促進するための国際的な協力の枠組として2005年5月に設立(日本政府を含む16の政府、国連機関等で構成)。復興支援ツールの開発やフォーラムの開催など、復興に関する知識の集積と情報発信をはじめとする国際社会における防災の取組を紹介します。www.recoveryplatform.org

会02

終日展示

●防災について学ぶ

一般社団法人マンションライフ継続支援協会／旭硝子株式会社(ガラスパワーキャンペーン)
「マンション防災の普及啓発」
管理組合等のマンション関係者を対象に、マンションの防災力強化・向上について啓発し、南海トラフ巨大地震等への対策強化を促進する為、防災の普及啓発パネル展示及びマンション室内の安全対策パネル展示、マンションの安全安心を実現する「合わせガラス」の紹介、マンション防災の普及啓発パンフレットの配布等を行う。

会03

終日展示

●防災について学ぶ

日本ジオパークネットワーク
「ジオパークは、自らの命を守る防災教育」
ジオパークは地球(ジオ)を学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます。ですからジオパークでジオを学ぶことは、自らの命を守るための防災教育にもなります。災害から身を守るために、災害を引き起こす自然現象を知って、災害から逃れる方法を知り、異常時にはすぐに行動することをジオで学んで下さい。

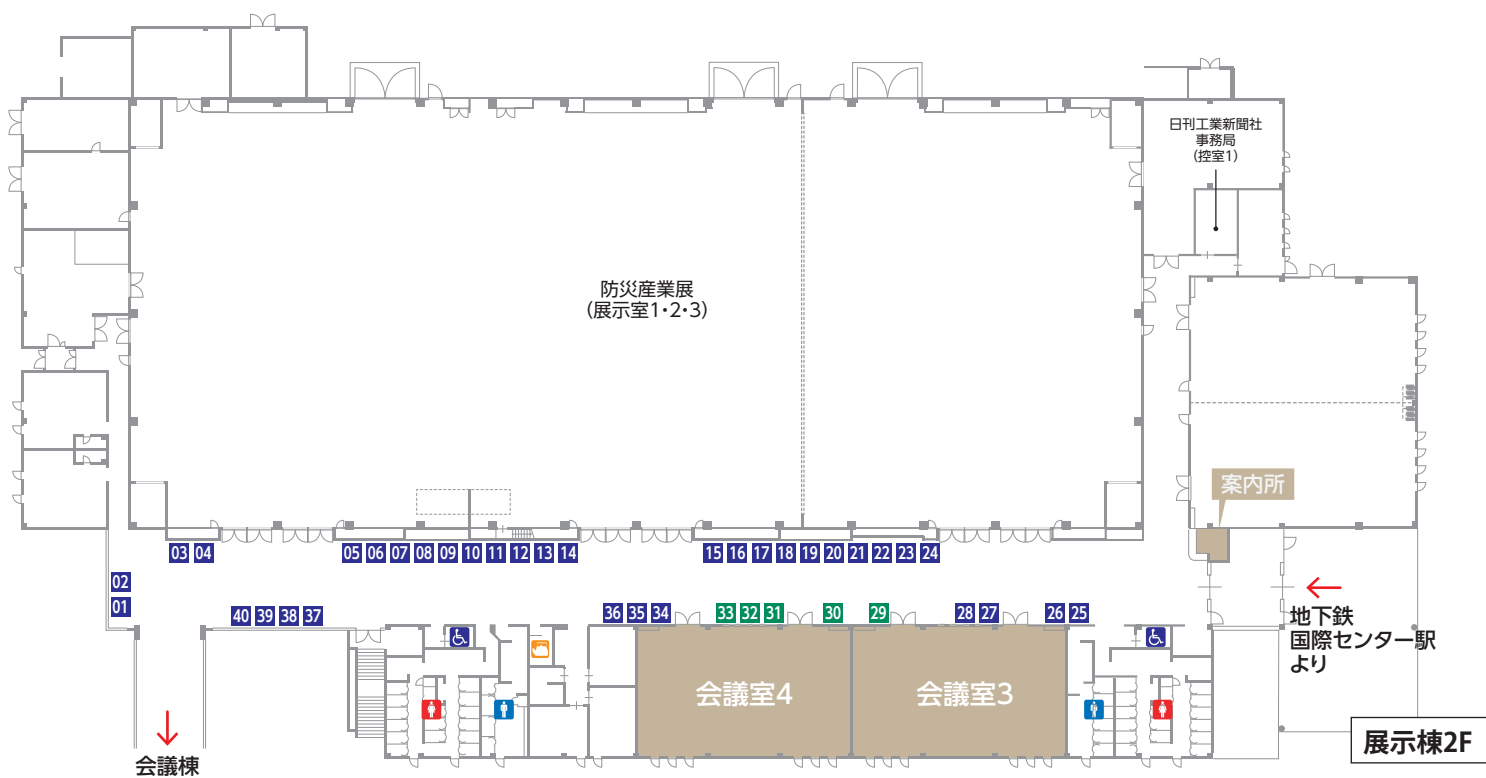
会04	終日展示	●防災について学ぶ
アール・ソリューション株式会社 「緊急地震速報アプリ「ゆれくるコール」」		
ゆれくるコールは緊急地震速報をお知らせするスマートフォンアプリです。地点を設定すると、どのくらいの大きさのゆれが何秒後に来るのかを確認でき、地震にそなえることができます。緊急地震速報の他にも、体感したゆれを共有する「ゆれ体感」や、防災知識を学べる「+ソナエ」など、様々な機能がついています。		
会05	終日展示	●防災について学ぶ
特定非営利活動法人 防災士会みやぎ 「防災士会みやぎの活動」		
「災害の惨状を忘れて、伝えたいで行くー」災害は忘れた頃にやってくる」これは昔のこと!地震や風水害など最近の災害は身近なところで頻繁に発生しかつ激甚化しています。「明治三陸大海嘯」の惨状が描かれた風俗画報のパネルや当会で制作した幼児向け減災絵本「リオン」等を展示します。		
会06	終日展示	●誰もが参加する防災
認定特定非営利活動法人 防災・減災サポートセンター 「地域防災マップ(マイマップ)づくり」		
自分と家族を自然災害から守る地域情報を満載した、手作りの「マイマップ」の作り方を紹介します。地域の情報は、自分の手、足、頭を使って集めます。地形や地盤、過去の災害履歴、避難場所などの情報にとどまらず、地域の人材の発掘や要支援者などの情報も集め、町内会の防災マップに発展させることも可能です。		
会07	終日展示	●誰もが参加する防災
一般財団法人 ペット災害対策推進協会 「ペットの災害対策」		
被災ペットとその飼い主のために被災ペット等の救護活動に資するための予防対策及び現地動物救護本部等（地方自治体、地方獣医師会又はそれらにより構成される現地動物救護本部）が行う被災ペット等の救護に対する支援に関する事業を行っています。		
会08	終日展示	●誰もが参加する防災
一般財団法人 日本気象協会 「3分間の豪雨・暴風疑似体験 日本気象協会「HERASEON」」		
ニュースや天気予報で耳にすることがある危険な気象条件「時間雨量50ミリ」や「平均風速30メートル」を疑似体験できる「HERASEON:ヘラセオン」。このアトラクションは大雨で身体がぬれることも、暴風で飛ばされることもありません。小さいお子様でも体験いただけます。		
会09	終日展示	●誰もが参加する防災
一般社団法人 日本損害保険協会 「損保業界の防災・減災に関する取組み」		
損害保険業界が実施している防災・減災に関するさまざまな取組みについて、パネル展示や映像などを通じて紹介します。○紹介する取組み：小学生向け安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」、幼児向け防災教育用カードゲーム「ぼうさいダック」、全国各地での消費者向け啓発取組み、地震保険の紹介など。		
会10	終日展示	●誰もが参加する防災
仙台八木山防災連絡会 「ライフラインがとまっても、いつものように」		
仙台八木山防災連絡会からの提案ライフラインが止まると困るのが食事とトイレ。でも、住宅被害がなければ身の回りのものを利用していつものご飯が簡単につくれます。また自宅の便座を利用する「水を流さずに使える非常用トイレ」を作り、お土産に持ち帰れます。自助・共助の秘案、体験してみませんか？		
会11	終日展示	●誰もが参加する防災
仙台市（太白区 家庭健康課） 「子育て家庭の防災講座」		
災害時に小さなお子さんや保護者ご自身の身を守るための行動や備えについて具体的に学べる「子育て家庭の防災講座」のコーナーです。親子向け防災リック体験とパーソナルカードづくりを行います。子育て家庭向け防災リーフレット「おやこでチャレンジ防災術」全4種の配布も行います。是非お立ち寄りください。		
会12	終日展示	●誰もが参加する防災
仙台市（市民局 男女共同参画課） 「防災と男女共同参画」		
「仙台防災枠組2015-2030」においては、より良い復興や災害リスク低減のために女性の参画やリーダーシップが重要であることが改めて確認されました。女性がこれまで以上に地域で力を発揮できる環境づくりの必要性や仙台市の取り組みを、パネル・映像を使って紹介します。		
会13	終日展示	●誰もが参加する防災
雨水ネットワーク東北 「仙台天水桶の紹介」		
地震など災害時の非常用水として、また日常での水道水の節約、そして気候変動に伴う豪雨や渇水への対策に、雨水を活用しましょう。ブースでは、①雨水の貯留浸透施設、②雨水利用関連パネルなどの展示を行います。		
会14	終日展示	●誰もが参加する防災
(独)国際協力機構 JICA東北支部 「持続可能な開発に向けた防災国際協力」		
世界では自然災害が数多く発生しています。特に開発途上国は災害に対して脆弱なため、大きな被害が発生、それまで積み上げた国づくりの成果を無にしています。持続可能な開発目標（SDGs）を達成するためには防災の視点が欠かせません。JICAは日本の経験をもとに、世界各国の防災力の向上に協力しています。		
会15	終日展示	●地域における連携を深める
復興庁 男女共同参画班 「多様な視点で考えよう!復興における男女共同参画」		
東日本大震災からの復興には、女性、子ども、障害者等を含めた多様な方の意見が反映されることが大切です。今回は、まちづくりや居場所づくりなどの視点から行われている東日本大震災に係る復興活動に関する男女共同参画の事例の紹介や、その他復興に関する情報を発信します。		
会16	終日展示	●地域における連携を深める
東北大学 課外・ボランティア活動支援センター 「震災の記憶を伝え、災害を防ぐための大学生と地域の連携」		
震災の記憶の風化を防ぎ、地域と連携して防災に取り組むことは被災地の学生ボランティアにとって重要なテーマである。このポスターセッションでは東北大学生が日頃、どのようなボランティア活動を通して、地域住民と連携しているか、また熊本の大学生が熊本大地震被災地でどのような活動を地域と連携して行ったかを報告する。		
会17	終日展示	●地域における連携を深める
日本医師会・宮城県医師会 「災害医療と医師会」		
災害対策の中で、医療は、もっとも大切なことの一つです。重傷患者の救命はもちろん、「超高齢社会」では、災害前から医療や介護を受けている方々へのケアも重要です。そうした視点で、平時からの地域の体制と災害時の全国からの支援体制をしっかりとつづけておくことが、これからの災害医療対策に求められます。		
会18	終日展示	●地域における連携を深める
災害看護グローバルリーダー養成プログラム(DNGL) 「地域で育む防災力ー産官学民連携を中心とした災害看護の取り組み〜」		
5大学から構成されるDNGLは、日頃より各地域の中で継続的な防災活動を展開しています。その取り組みは産官学民連携を基盤とし、ステークホルダー間の顔の見える関係づくりを重視しながら、防災活動の促進およびネットワークの拡大強化を目指しています。当日は、具体的な活動内容やアプローチについて発表します。		

会19・20	終日展示	●防災について学ぶ
宮城県（土木部復興まちづくり推進室） 「宮城県沿岸市町の復興まちづくり事業について」		
東日本大震災の津波で被災した宮城県沿岸の復興まちづくりへの取組状況をパネル展示します。パネルをご覧になり、ぜひ沿岸の市町へ足を運んで頂ければ幸いです。		
会21～25	終日展示	●防災について学ぶ
国土交通省 東北地方整備局 「公共施設の早期復旧、自治体支援と災害伝承」		
震災で壊滅的な被害をうけた河川、道路、港湾などを復興まちづくりと一体的に復旧復興を進めている状況とその整備効果。また震災の教訓を伝承する国営追悼・祈念施設整備の取り組み。さらには大災害の際に、被災地へいち早く入り自治体の防災対応を支援する国土交通省の活動について紹介します。		
会26	終日展示	●防災について学ぶ
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 「森林の放射性物質はどうなったか」		
(国研)森林総合研究所では、福島原発事故後、森林の放射性物質の状態を毎年続けて調べてきました。その結果、事故直後に葉や枝に出していた放射性セシウムは、時間の経過とともに急速に土壌に移動し、事故から5年経ってもほとんどは森林の外に流れ出せずに土壌の表層部に留まっていることが明らかになりました。		
会27	終日展示	●防災について学ぶ
農林水産省 林野庁 「海岸防災林の復旧・再生に向けて(東日本大震災からの復興)」		
海岸防災林は、津波、高潮、飛砂などから人家や農地を守るとともに、白砂青松の美しい景観や憩いの場の提供など大切な役割を果たしています。地域の皆様の協力のもと、津波により被災した海岸防災林の復旧・再生を行っていますので、その取り組みを紹介します。		
会28	終日展示	●防災について学ぶ
和歌山県 「和歌山県の防災対策と「稲むらの火」」		
11月5日「世界津波の日」制定の由来となった、「稲むらの火」の故事や濱口梧陵翁の功績、また、南海トラフ地震などの地震・津波から命を守る本県の取り組みについてご紹介します。		
会29	終日展示	●防災について学ぶ
東北大学災害科学国際研究所・東北大学リーディング大学院グローバル安全学トップリーダー育成プログラム 福島県いわき市津波避難研究プロジェクト 「津波災害時における自動車の避難をどう考える？」		
2016年11月の津波警報で避難の渋滞を経験したいわき市では、関係機関が集まる検討部会を立ち上げて、津波時の自動車避難のガイドラインや避難訓練の方法などを検討し、取り組んできました。いわき市における1年間のさまざまな取り組みを紹介し、津波災害時の自動車を使った避難について考えます。		
会30	終日展示	●防災について学ぶ
熊本県・熊本大学 「熊本地震の教訓」		
熊本地震の初期動・応急対応期における取組の検証概要や被災状況、復旧・復興過程を記録した「熊本地震デジタルアーカイブ」を展示します。また、熊本地震の経験と自主防災組織等の生の声から生まれた「避難所初動運営キット」に触れていただき、家庭や地域等の平時からの備えや防災対策に活用していただきます。		
会31	終日展示	●防災について学ぶ
日本赤十字社 「日本赤十字社の活動紹介」		
日本赤十字社は国内外における災害救済をはじめとし、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。東日本大震災時の「石巻赤十字病院初動の記録」の活動紹介、児童への防災教育プログラムとして作製した「まもるいのち ひるめるぼうさい」などの映像を通じた活動をご覧いただき、防災について学ぶ内容となっています。		
会32	終日展示	●誰もが参加する防災
一般社団法人 防災教育普及協会 「地域における防災教育の実践」		
内閣府(防災担当)・防災教育チャレンジプラン実行委員会による「地域における防災教育の実践の手引き」や本協会が行っている様々な防災教育の普及啓発に関する取り組みをご紹介します。学校・家庭・地域、企業や団体で防災教育に取り組むためのヒントになれば幸いです。http://www.bousai-edu.jp		
会33～35	終日展示	●防災について学ぶ
防災学術連携体・日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会 「衛星情報・地理情報と防災イノベーション」		
人工衛星は、昼夜を問わず、地球に関する膨大なデータを取得し続けている。人工衛星によるデータは精度を高めつつあり、防災・減災、災害復興の幅広い分野に活用され始めている。防災学術連携体の各学会から、衛星情報・地理情報に関する現状と将来計画や利用事例をポスターにて紹介する。		
会36	終日展示	●防災について学ぶ
アジア防災センター 「アジア地域の防災協力の推進」		
アジア地域の防災協力の推進 自然災害による被害が多いアジア地域において、被害を軽減するための人材育成・技術協力・情報共有を推進しているアジア防災センターの活動概要と昨年行った熊本地震被災地の共同現地視察を紹介します。		
会37	終日展示	●防災について学ぶ
防災推進協議会 「第32回防災ポスターコンクール入賞作品」		
内閣府、防災推進協議会では、防災意識のより一層の高揚を図るため、防災に関するポスターデザインを広く一般から公募を行う「防災ポスターコンクール」を実施しております。昨年度行ったコンクールにおいて、入賞した作品を展示します。		
会38	終日展示	●防災について学ぶ
東京都 「東京都における防災普及啓発の取組」		
防災ブック「東京防災」や「日常備蓄」の推進など、「自助・共助」の取組向上に向けた東京都の施策を紹介します。		
会39	終日展示	●防災について学ぶ
関西広域連合広域防災局 「関西広域連合広域防災局の取り組み」		
関西広域連合は、複数府県で構成する全国初の広域連合として、平成22年12月に設立され、府県域を越える広域課題に取り組んでいる。広域防災局では、構成団体が有する防災に係る人材、知見、情報、施設等の資源を活用し、そのネットワーク化を進めて、防災力をさらに高め、関西全体の安全・安心の向上を目指している。		

展示棟 ブース展示・ポスターセッション

会場マップ

■…ブース展示 ■…ポスターセッション



展01・02

終日展示

●防災について学ぶ

文部科学省・政府地震本部 × 国立研究開発法人海洋研究開発機構
「真相を追え!海底地震の謎に迫る!」

海底で発生する地震のメカニズム解明に向けて、様々な調査研究を行っています。「東北地方太平洋沖地震の発生時、海底では何が起こっていたのか」、「掘削船で海底の震源域を調査」、「最新の海底地震津波観測網とは?」など、大人から子供まで、わかりやすく防災・減災のための最新の科学技術の取組を紹介します。

展03

終日展示

●防災について学ぶ

一般社団法人 防災ジオラマ推進ネットワーク
「段ボールジオラマ防災授業」

組立式のジオラマキットを活用したワークショップ型の防災学習プログラムのご紹介です。自分の住んでいるエリアの地図が印刷された段ボール製のジオラマを組み立て、楽しみながらまちの地形や災害リスクが学べます。防災関連などの様々な情報をマッピングするなど、その後も地域の共有資産として活用いただけます。

展04

終日展示

●防災について学ぶ

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
「陸海統合地震津波火山観測網」

日本は地震大国であり南海トラフや首都圏をはじめ様々な地震が起こることが懸念されています。これらに備えるため防災科学技術研究所の地震津波火山ネットワークセンターでは、日本列島とその周辺において二千地点以上からなる観測網で網羅的な観測を行っています。本ブースではこれらの観測網とそのデータを用いた研究を紹介します。

展05

終日展示

●防災について学ぶ

一般社団法人日本集団災害医学会・日本DMAT
「一般社団法人日本集団災害医学会・日本DMAT・日本の災害医療体制」

災害時、日本DMATを皮切りに本邦の災害医療体制は、毎年経験する様々な災害から学び、日々成長をしている。日本集団災害医学会はそれら成長を学術的に探究し、国内外にその情報を発信している。それら知見から現在の日本の災害医療体制を紹介する。

展06

終日展示

●防災について学ぶ

仙台管区気象台

「あなたの命を守る 防災気象情報の改善」

近年、集中豪雨や台風等による被害が相次いで発生しています。雨の降り方が局地化、集中化、激甚化していることを「新たなステージ」と捉え、気象庁では、防災気象情報を分かりやすく、迅速に、積極的に伝えることを目的として防災気象情報の改善を行いましたのでご紹介します。

展07

終日展示

●防災について学ぶ

東北大学災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門
「地震津波リスク評価および総合的な防災・減災に向けて 一産学の連携を通じて」

本研究部門では東京海上グループとの産学連携による研究活動により、人的や建物被害に関する被害箇所の提案、また自然力(マングローブや防潮林の活用などの減災効果)や多重防御などによりリスクを軽減する手法を提案しています。さらには防災教育や避難訓練の企画・実施を通じて被災地での復興を支援しています。

展08

終日展示

●防災について学ぶ

特定非営利活動法人東北福祉大学防災士協議会Team Bousaisi
「防災を次世代へ繋ぐ!学生防災士の活動」

東日本大震災から6年が経過し、早くも震災を知らない・憶えていない世代が出てきている。そのような中で、どのように記憶を継承し、次の防災に活かすことができるのか。各方面から注目を受けている学生防災士の活動を紹介する。

展09

終日展示

●防災について学ぶ

石油連盟

「万が一の災害時に命を支える石油機器の紹介」

石油連盟は、ENEOS、出光、昭和シェル、コスモ石油等の石油製品の製造・販売を行う事業者の団体です。災害時に住民の命を支える石油について、石油製品の安定供給への取り組みと防災対策としてお役に立つ石油機器をご紹介します。

展10

終日展示

●防災について学ぶ

一般社団法人 日本建設業連合会
「建設会社の防災活動」

建設会社の災害時の活動紹介、建設防災トレーニングカードの配布。

展11

終日展示

●防災について学ぶ

農林水産省

「災害時の食料はどうする?」

地震等の大規模災害時に備え、日頃から家庭で最低でも3日分、できれば1週間分程度の備蓄に取り組むことが重要です。期間中は、家庭での食料品備蓄のポイントが分かるパネルの展示や「緊急時に備えた家庭用食料品備蓄ガイド」等の配布を行います。あわせて、農林水産省が行う災害対策等も紹介します。

展12

終日展示

●地域における連携を深める

国立研究開発法人情報通信研究機構 耐災害ICT研究センター
「耐災害ICT研究と地域連携」

当センターは、東日本大震災を教訓として「耐災害ICT研究」を実施する研究拠点として被災地である仙台市に開設されました。今回は地方公共団体等が実施する防災訓練等においても活用されている「大規模災害時の被災状況把握システム DISAANA&D-SUMM」等、当センターの研究開発成果を紹介します。

展13

終日展示

●地域における連携を深める

三陸&東海防災教育フェスティバル ～伝～ 実行委員会
「防災を通しての地域連携・教育活動」

平成30年2月に愛知県で、教育関係者・防災や減災の取組をしている方々との繋がりを生かしてフェスティバルを企画しています。今回は、その価値と可能性を伝える活動の第一歩として、防災・減災に強いまちとは、絆が強いまち!ということを生んでいる仙台市立北六番丁小学校の防災教育の取組を中心に発表いたします。

展14

終日展示

●地域における連携を深める

東北学院大学災害ボランティアステーション
「災害時の社会資源としての学生ボランティアと大学ボランティアセンターの取り組み」

被災地域に対し、学生と教職員が一緒に、被災地の屋外清掃に始まり、混乱した交通状況の整理、避難所への後方支援、支援要請のマッチングなど、多様なニーズに対応した。現在、活動が多様化し、地域情報の集約・共有、学生・教職員による直接支援、学外組織との連携・中継拠点など、役割・機能も広範囲に及んでいる。

展15

終日展示

●地域における連携を深める

日本労働組合総連合会(連合)
「連合の防災・減災への取り組み紹介」

連合は49の産業別組織、47都道府県にある地方連合会、686万人の組合員を有する日本最大の労働組合組織です。防災・減災については災害に備えるための取り組みを進め、災害時には東日本大震災や九州地震の教訓を生かし、速やかにボランティアを派遣し、現地の社会協議会と連携しながら復旧に向けた活動にも貢献してきました。



みやぎ生協・日本生協連



防災ジオラマ推進ネットワーク



仙台市（まちづくり政策局 震災復興室）



特定非営利活動法人 日本火山学会

展16	終日展示	●地域における連携を深める
総務省 東北総合通信局 「災害時における通信確保のための支援」 東北総合通信局では、地方公共団体・災害復旧関係者からの要請に応じて「災害対策用移動通信機器」（衛星携帯電話・簡易無線機）を無償で貸し出し、災害時の通信確保を支援しています。		

展17	終日展示	●地域における連携を深める
仙台市（危機管理室 減災推進課） 「自助・共助の取組み」 東日本大震災では、家庭での災害への備え（自助）と、地域における防災の連携（共助）の重要性が再認識されました。自助・共助について現在どのような取り組みがなされているのか、また、どのように取り組みればよいのか、実例を交えながらご案内していきます。		

展18	終日展示	●地域における連携を深める
公益社団法人 全国子ども会連合会 「ぼうさいこくたい 会場たんけん」 「たんけん、はっけん、ほっとけん」ぼうさいこくたいの会場を大いにたんけんしてください。このブースに立ち寄ってくれば「たんけんシート」をお配りします。そこで体験したこと、まなびだことをチェックしてきて、あとで教えてください。いっしょにふりかえりましょう。参加してくれた人には記念品もありますよ。		

展19	終日展示	●地域における連携を深める
国立国会図書館 「東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）」 東日本大震災に関連する記録を包括的に検索できるポータルサイト「ひなぎく」。震災の記録・教訓を次の世代へ伝え、今後の防災・減災対策に役立てることを目的としています。展示ブースでは、防災学習や調べ学習での活用法のご紹介のほか、連携するアーカイブのパンフレットの配布やプレゼンテーションを行います。		

展20	終日展示	●地域における連携を深める
環境省 動物愛護管理室 「ペットも守ろう！防災対策」 環境省では地震等の災害時におけるペットとの同行避難やペットを連れた被災者の支援、防災対策の普及啓発などに取り組んでいます。いざというとき、人とペットの安全のために必要な日頃の備えと心構えを紹介します。		

展21・22	終日展示	●地域における連携を深める
宮城県（総務部危機対策課） 「みやぎの地域防災力」 東日本大震災を経験し、宮城県内の各地域では、どのような取り組みが行われているか、共助を中心にパネル等でご紹介します。		

展23	終日展示	●地域における連携を深める
東北大学 グローバル安全学トップリーダー育成プログラム（G-Safety） 「地域の防災・減災を考える学生自主企画の活動報告」 東北大学G-Safetyプログラムの分野融合型プロジェクトベースドラーニングの一環である、学生主体の自主企画活動の中から、4つの取り組みを紹介する。「いわき市沿岸部における防災のための科学教育」「防災・減災のための教育活動」「若手県沿岸部における復興の実態調査」「復興・防災におけるご当地キャラクターの役割解明」		

展24	終日展示	●地域における連携を深める
仙台北百合学園高等学校 「外国人への支援体制」 東日本大震災における甚大な被害データの中で、死傷者に占める外国人の割合は高く、しかし、今なお改善のための支援体制は不十分です。被災地に暮らす外国人や留学生、震災時に外国人受け入れ経験のある日本人、防災・減災に取り組む有識者、多くの方々の声を形に、外国人向け「減災パンフレット」を開発しました。		

展25・26	終日展示	●地域における連携を深める
みやぎ生協・日本生協連 「Fucco（手作り商品で復興支援）」 みやぎ生協ボランティアセンターとNPO法人「応援のしっぽ」が、「被災された方々の自立支援を商品購入で応援」をテーマに協同で推進している「とうほくてしごとカタログ Fucco（フッコ）」。 同カタログを通じて被災者の手作り商品を通したがんばりやいきがい、地域コミュニティの再生を応援します。		

展27	終日展示	●地域における連携を深める
一般社団法人 全国建設業協会 「つくる！なおす！まもる！地域建設業の取り組み」 地震や台風、大雪や竜巻など予期せぬ災害が発生したとき、真っ先に災害現場に駆けつけ、被害を最小限に抑えるため、応急復旧を行っている。…そんな地域建設業の活動状況をパネルで紹介いたします。また、建設のしごとを知ってもらうための子ども向けパンフレット「建設学習帳」の配布等も行います。		

展28	展29	終日展示	●地域における連携を深める
一般社団法人 宮城県建設業協会 「一般社団法人 宮城県建設業協会の活動」 建設事業を通じて地域の安全・安心で快適な暮らしを支える活動を展開。東日本大震災直後からの道路啓開等を担い、災害時・緊急時には地域の町医者として即時に対応するとともに、本年3月栗原市の「高病原性鳥インフルエンザ」防疫措置における埋却作業等にも対応。災害対策基本法に基づく宮城県の指定地方公共機関に指定。			

展30	終日展示	●地域における連携を深める
仙台市社会福祉協議会 「「災害時のボランティア活動」と「支えあいセンターの被災者支援活動」」 「仙台市災害ボランティアセンター」の東日本大震災前からの取り組みと実際の運営や実践内容を時系列で紹介。併せて、当時のチラシや問い合わせ内容等の資料を提供。また、みなし仮設住宅や復興公営住宅等入居世帯の孤立防止のための訪問活動、関係機関や地域と協働してのコミュニティ活動支援の取り組みを紹介。		

展31	終日展示	●誰もが参加する防災
仙台市（教育局 生涯学習課） 「3が11にちをわすれないためにセンター」 せんだいメディアテークが、市民、専門家、アーティストと協働し、震災の記録・発信をしていくため、2011年5月3日に始めたプラットフォーム。技術や経験の有無にかかわらず、個人の視点で震災を記録し、その映像や音声等が「震災の記録・市民協働アーカイブ」として整理・保存され、さまざまな形で活用されている。		

展32	終日展示	●地域における連携を深める
仙台市（文化観光局 文化振興課） 「音楽の力による心の復興」 東日本大震災後の音楽による被災地支援の代表的事例である「復興コンサート」や仮設住宅に入居されていた方々等で構成された「みやぎの「花は咲く」合唱団」の関係者へのインタビュー等をまとめた映像により、人々の心の復興に大きな役割を果たしてきた「音楽の力」を紹介します。		

展33	終日展示	●地域における連携を深める
仙台市（文化観光局 東北連携推進室） 「東北連携による復興ツーリズムの推進」 東北は、豊かな自然や温泉、独自の食文化、多彩な伝統芸能、勇壮な祭りなど、多様な観光資源を有し、東日本大震災からの復興状況や震災の教訓など、「学びの場」としても大きな可能性を秘める。東北の観光復興に向けて、青森・岩手・宮城・福島各県と仙台市が連携して進める復興ツーリズムの取り組みを紹介する。		

展34	終日展示	●地域における連携を深める
リアルタイム地震・防災情報利用協議会（REIC） 「「ハザード・リスク実験コンソーシアム」と「緊急津波避難情報システム」の紹介」 REICは、リアルタイム防災情報を活用・提供することで、広く災害軽減に貢献することを目指しています。本展示では、防災科学技術研究所の研究成果の民間利活用に向けた取組みとして発足した「ハザード・リスク実験コンソーシアム」をご紹介します。あわせて「緊急津波避難情報システム」の社会実験についてご紹介します。		

展35	終日展示	●地域における連携を深める
一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会 「すべての福祉施設が「福祉防災計画」作成を！」 多くの福祉施設の災害対応は「災害が起きたら避難する」という段階でした。しかし、実際には「福祉利用者の安全な避難」「避難先での福祉サービスの継続」「地域貢献・連携」なども必要です。これに対応するのが「福祉防災計画」です。ここでは「福祉防災計画」の内容と研修方法を伝えします。		

展36	終日展示	●地域における連携を深める
尚絅学院大学 ボランティアチームTASKI（たすき） 「名取市内の被災地での活動」 尚絅学院大学 ボランティアチームTASKIは、地元名取市において、「つなげる」、「つづける」、「つたえる」を大切に、途切れない支援を目指しています。震災から6年が経過し、仮設住宅から復興公営住宅などへ変化する中、新しいコミュニティ形成への支援と、仮設に残られる方への寄り添いを続けていきたいと考えています。		

展37	終日展示	●防災について学ぶ
一般社団法人日本リモートセンシング学会 「防災とリモートセンシング」 防災分野でのリモートセンシングやそれを用いた技術の必要性が高まっています。本ブースでは、日本リモートセンシング学会が取り組んでいる防災分野における活動をご紹介します。		

展38	終日展示	●防災について学ぶ
特定非営利活動法人日本火山学会 「火山とその災害について学ぼう」 日本火山学会では、火山に関する研究だけでなく、一般の方々に火山のことを知っていただくための取組も行っています。ここでは、火山学会が行っている火山防災事業について紹介します。		

展39	終日展示	●防災について学ぶ
宮城県多賀城高等学校 「防災減災の取り組み」 全国で2例目、理系学科としては全国初となる防災系専門学科「災害科学科」を開設し、様々な防災減災活動に取り組んでいます。防災減災の「イイロ」スクールとして、震災の記憶の伝承と災害への備えを探究するとともに、様々な方々との交流活動も行っています。		

展40	終日展示	●防災について学ぶ
仙台市（まちづくり政策局 震災復興室） 「東日本大震災からの仙台の復興」 東日本大震災の発生以来、国内外からたくさんのご支援をいただきながら、仙台市は様々な事業に取り組み、復興に向けての歩みを進めてきました。この間の取組みをパネルでご紹介するほか、本市復興の原動力となった市民や地域団体・NPO、企業やボランティアなど多様な主体の活動を紹介する記録誌などを配布します。		



いろいろな消防車大集合
～乗って・見て・楽しんで きみも消防士だ！～

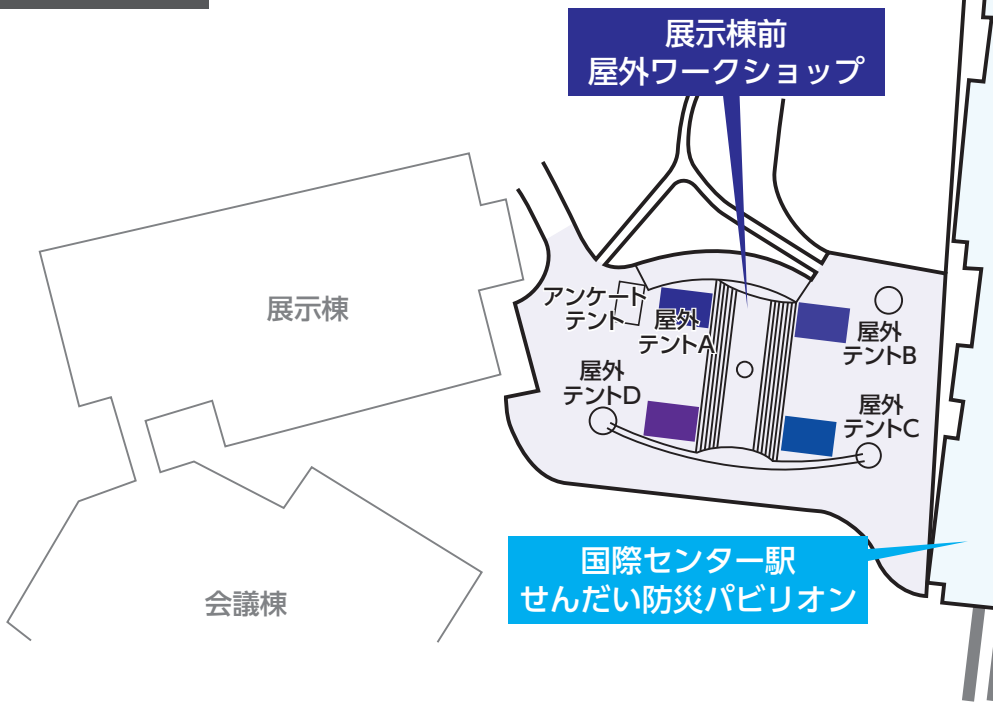


婦人防火クラブによる炊き出し



防災×宝探しゲーム
～ピクトグラムと大賢者の秘宝～

会場マップ



せんだい青葉山交流広場 屋外展示

屋外展示A 11月26日(日) ●誰もが参加する防災

日本防火・防災協会「宮城県婦人防火クラブ連絡協議会による炊き出し」

婦人防火クラブは、全国で8,600クラブ、132万人の自主的な防災組織で、火災予防や防災意識の啓発、阪神淡路大震災や東日本大震災の時には各種支援物資の調達、炊き出し等を行って 왔습니다。今回、32万人を擁する宮城県婦人防火クラブ連絡協議会が「仙台風芋煮」と「アルファ米」を各500食分提供予定です。

屋外展示B 終日展示 ●防災について学ぶ

東北大学・日産自動車・本田技研工業・オートモーティブエナジーサプライ「災害時対応型電気自動車(EV)」
電気自動車(EV)のバッテリーに蓄えられた電力は、車から取り出して様々なことに活用することができます。今回は、東北大学災害科学国際研究所が災害対応や被災地の研究活動に活用しているEVを展示するほか、EVから電気を取り出す機器や方法と、災害時のEVの活用方法をご紹介します。

屋外展示B 終日展示 ●地域における連携を深める

総務省 東北総合通信局「災害時における通信確保のための支援」

東北総合通信局では、地方公共団体からの要請に応じて「災害対策用移動電源車」を無償で貸出し、災害時の通信確保を支援しています。また、日本地域放送支援機構と連携して「臨時災害放送局用機器」を貸出し、避難住民への情報伝達を支援しています。

屋外展示B 11月27日(月) 13:00～15:00 ●地域における連携を深める

仙台市・NTTドコモ・一般社団法人ドローンテックラボ仙台「防災・減災ドローンに関する屋外展示」

仙台市では、民間企業・団体と連携し、防災・減災に向けたドローン等のICT技術を活かし、実用化を視野に入れたソリューションの開発実証に取り組んで 왔습니다。屋外展示では、これまでの取組内容の紹介と、今後実証に取り組むことも視野に、国内外の新たな技術を紹介します。

屋外展示B 終日展示 ●誰もが参加する防災

札幌市「札幌市防災アプリ そなえ」

スマートフォン用のアプリ「そなえ」の主な機能は、①災害情報表示_②避難場所表示：GPSで現在地周辺の避難場所を平面図やARを使い現実風景に重ねて方向や距離を表示_③SOS位置通知：事前登録したメールアドレスへメッセージと自分の位置を発信です。インストールは無料。

屋外展示B 11月26日(日) ●防災について学ぶ

ヤマハモーターエンジニアリング株式会社「災害救援活動二輪車の紹介」

災害時初動バイクです。
家庭用コンセントからメインバッテリーを充電でき、いざというときもすぐに出勤可能。
シガーソケットから電子機器の充電もでき、災害時の交通規制や情報収集、地域パトロールにも活用できます。

屋外展示B 終日展示 ●誰もが参加する防災

地盤ネット株式会社「災害リスク無料診断」

1分であなただけの地盤しらべます。「家にいれば安全」な世界をつくりたい。このスローガンをモットーに、今いる場所や指定された場所の災害リスクが手軽にわかる無料サービスを開発しています。当日は地盤にまつわるクイズや、もれなくもらえるプレゼント企画などをご用意しています。

屋外展示B 終日展示 ●防災について学ぶ

株式会社ラゲジ工業「防災・救命シェルター-CL-HIKARI」

家庭や施設等に簡単に設置ができ災害発生時には直ちに避難完了が可能となる小型の救命シェルターです。水難災害時、水上浮遊状態ではハッチが上方になるためハッチの開放が可能で生存者を水上で救助することが可能です。また、内部で気絶した生存者を外から救助・救命する事も可能な構造となっています。表面色は視認性が高い「国際救難(オレンジ)色」を採用しました。

屋外展示B 11月26日(日) ●防災について学ぶ

株式会社モンベル「モンベルが提案する災害への備え」

アウトドア用品は、厳冬期の高峰や灼熱の荒野など、過酷な自然環境での使用を想定して開発されています。アウトドアメーカーとして皆さんに提案したい「災害への備え」を、改めてご紹介します。

屋外展示B 11月26日(日) 12:00～17:00 ●防災について学ぶ

株式会社Round Table 協力:国土防災技術株式会社、一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター「防災×謎解き宝探しゲーム ～ピクトグラムと大賢者の秘宝～」

大人気の参加型アトラクション「謎解き宝探しゲーム」が「防災」とコラボレーション!親子で楽しみながら防災が学べます!最後まで謎を解いた、ちびっこ名探偵には、なんと・・・「大賢者の秘宝」をプレゼント!

屋外展示C 終日展示 ●防災について学ぶ

陸上自衛隊 第6師団 第22普通科連隊「自衛隊車両(展示)」

陸上自衛隊 第6師団 第22普通科連隊 陸上自衛隊が装備する、高機動車、軽装甲機動車、偵察用バイクを展示します。

屋外展示D 11月26日(日) ●誰もが参加する防災

全国消防長会・仙台市消防局「いろいろな消防車大集合 ～乗って・見て・楽しんで きみも消防士だ!～」

特殊な災害に対応する消防車を展示することにより、様々な消防の任務について紹介するとともに、地震体験等を通じて防災意識の普及啓発を図ります。

屋外展示D 終日展示 ●誰もが参加する防災

飛鳥特装株式会社「地震体験」

いつやってくるかわからない地震だから、その恐怖に今から備えませんか?過去の大地震、そして今後予測される地震、それらの揺れを体験し、万全の備えを。(3次元起動装置搭載 地震体験車)

アイリスオーヤマ株式会社「生活用品で地域貢献を目指します」 ●地域における連携を深める

内閣府・経済産業省(おもてなしプラットフォーム)「Touch&Payでスタンプラリー」 ●誰もが参加する防災

ワークショップ

屋外テントA 11月26日(日) 10:30～12:00 ●防災について学ぶ

仙台管区気象台「大雨防災ワークショップ ～経験したことのない大雨 その時どうする?～」

日頃からの防災意識を高め、実際の行動につなげていただくため、「自らの問題」として日頃からの備えや適時適切な防災気象情報の入手とその情報を活用した安全行動を事前にシミュレートしていただきます。(小学校高学年から一般の方対象)※定員制となりますが、空きがあれば当日参加も可能です。

屋外テントA 11月27日(月) 10:00～17:00 ●誰もが参加する防災

日本赤十字社「日本赤十字社による救急法体験」

Let's enjoy 赤十字英劇団と学ぶ「AED操作」

屋外テントB 11月26日(日) 13:00～16:00 ●防災について学ぶ

損害保険ジャパン日本興亜株式会社「防災ジャパンドプロジェクト 防災ワークショップ」

災害時に身を守るためには、防災についての行動や知識を学ぶことが重要です。このワークショップでは、車用のジャッキなど身近にあるものを活用したワークショップ体験やカードゲームなどを通して、いざという時の技や知識を、親子で楽しく身につけることができます。

屋外テントC 11月26日(日) 10:00～12:00 ●誰もが参加する防災

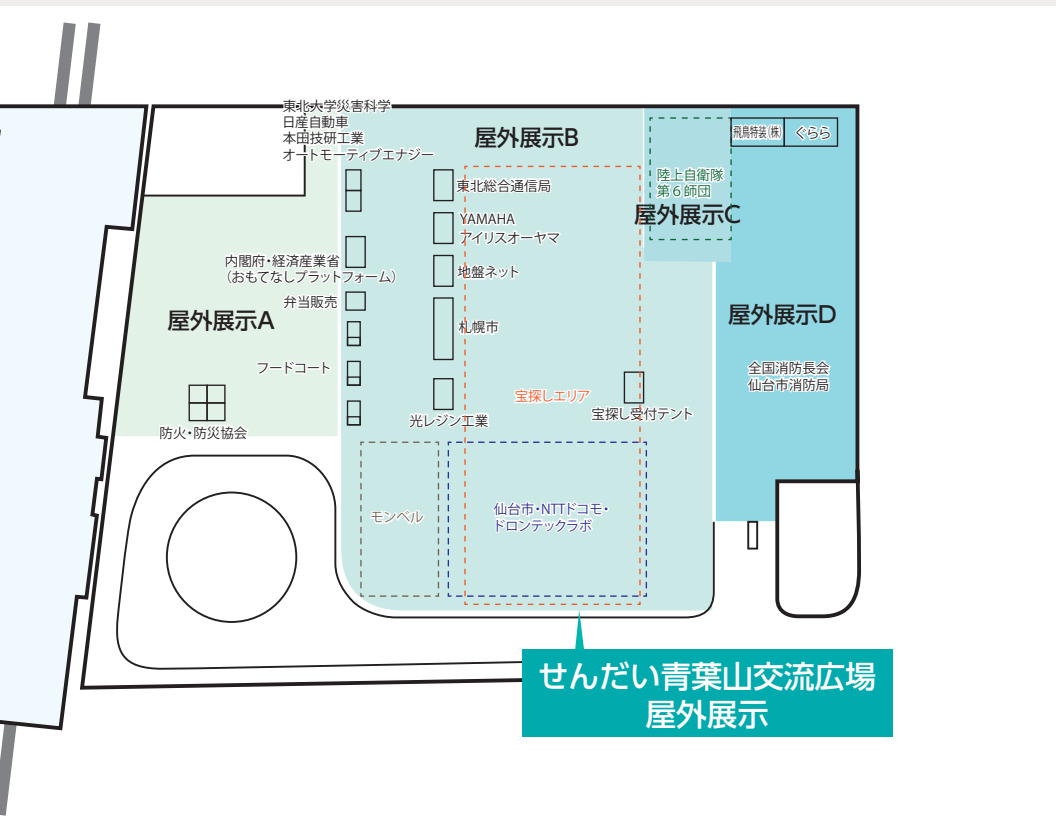
わしん倶楽部「PUSHプロジェクト「胸骨圧迫&AEDの使い方を学ぶ」」

「もし、あなたの目の前で人が突然倒れたら、あなたはどうしますか?」PUSHプロジェクトでは簡易キットを活用し「胸骨圧迫&AEDの使い方」の普及を通じて突然倒れた方を救命できる地域づくりを目指し、学校に於ける心肺蘇生教育の実施により「命を大切にすること」を育んでいます。※定員制となりますが、空きがあれば当日参加も可能です。

屋外テントC 11月26日(日) 13:30～14:30 ●防災について学ぶ

防災ジオラマ推進ネットワーク「みんなで作ろう!段ボールジオラマ ワークショップ」

組立式の段ボールジオラマキットを活用したワークショップ型の防災学習プログラムを体験いただけます。皆でジオラマを組み立て、楽しみながら地形の特徴や災害リスクを学びます。本来は自分の住むまちが対象となりますが、当日イベントでは宮城県石巻市を題材とし、東日本大震災の被災状況や安全な暮らしについて考えます。※定員制となりますが、空きがあれば当日参加も可能です。



防災エンスショー ～楽しく科学・伝える防災～



段ボール迷路 ～BOUSAI QUIZ☆ラビリンス～



減災カルタ・クイズ

屋外テントD	11月26日(日)	10:00～13:00	●誰もが参加する防災
認定特定非営利活動法人アフタースクールばるけ「地域における自助・共助の活動 障害児者の家族からのメッセージ」 平成23年3月11日の東日本大震災後、障がい児者の保護者がばるけの職員と協働で「困っている人をちょこっと見守って手助けをしてくれる人が増える」ことを願い、啓発の冊子と紙芝居を作成し、児童館や親子通園施設などで出前ワークショップと定例会を行っています。※定員制となりますが、空きがあれば当日参加も可能です。			

会議棟：小会議室4	11月26日(日)	15:00～17:00	●誰もが参加する防災
TEAM防災ジャパン「TEAM防災ジャパン オフラインミーティング<屋の部>」 防災に取り組まれている皆さまが、「ぼうさいこくたい」に集まるこの機会に、顔合わせができる場を設けました。皆さまが日頃より取り組んでいる、「防災・減災活動」の情報や課題の共有など、防災について語り合います。			

国際センター駅 せんだい防災パビリオン

11月26日(日)	10:00～16:10	
仙台市「せんだい防災パビリオン」 防災・減災をテーマに、防災実験やゆるキャラ達によるミニステージショー、防災ランタン・スイーツ作りやクイズ、ゲームなど、気軽に楽しく学べるいろいろなイベントが国際センター駅に集結。「クイズ×メイロ×ぼうさい」が同時に体験できる段ボール迷路で、クイズを解いて迷路をクリアした方には景品をプレゼント! 防災に取り組む学生たちのミニプレゼンテーションもあります。		
2階「青葉の風テラス」多目的スペース		
11月26日(日)	10:00～10:30	13:15～13:45
ミニステージ 東北福祉大学 減災・防災サークルPASS 「防災レンジャーショー!! ～一緒に減災・防災について学ぼう～」 防災レンジャーの「減災〇×クイズ」に挑戦!		
11月26日(日)	10:30～11:00	13:45～14:15
ミニステージ 宮城教育大学 幼児教育講座「紙芝居「じしんのときのおやくそく」」 しまじろうと地震の時のおやくそくを学ぼう!		
11月26日(日)	11:00～11:30	
ミニステージ KHB東日本放送「防災ぐりり～ず劇場」 ぐりりとその仲間たちの歌や踊り、クイズもあるよ!		
11月26日(日)	11:30～12:00	15:00～15:30
ミニステージ 特定非営利活動法人防災士会みやぎ「減災紙芝居「リオン」～リオンと一緒に地球をたびしよう～」 災害に対する準備の大切さを楽しく学ぼう!		
11月26日(日)	12:00～12:35	15:30～16:05
ミニステージ 八木山防災パフォーマンスチーム「ぼうさいダンス」 災害時に大切な動きを楽しいダンスで覚えよう!		
11月26日(日)	12:35～13:15	
ミニステージ ミヤテレ震災復興プロジェクト「ミヤテレおもり教室」 だよんと一緒に歌って踊って!「防災〇×クイズ」で楽しく防災について学ぼう!		
11月26日(日)	14:15～15:00	
ミニステージ 阿部清人(サイエンスインストラクター・防災士) 「防災エンスショー ～楽しく科学・伝える防災～」 防災と科学(サイエンス)が合体! 身近なものを使った楽しい科学ショー!		

11月26日(日)	10:00～16:00	手仕事品販売
仙台市沿岸 編み会・縫い会／りんくる「被災地の女性たちによる手仕事品販売」 仙台市沿岸 編み会・縫い会：アクリルたわし、編みぐるみ等 りんくる：木製のキーホルダー、ガラスのペンダント等		
2階「青葉の風テラス」屋外テラス		
11月26日(日)	10:00～15:00	体験型イベント
東北福祉大学「減災カルタ・クイズ」 楽しみながら一緒に「減災・防災」を学ぼう!		
11月26日(日)	10:00～15:00	体験型イベント
仙台市(都市整備局建築指導課・青葉区街並み形成課) 「ペーパークラフト」紙ぶるで地震に強いおうちを作ろう! 「紙ぶる」を組み立てて、地震のゆれの違いを体験しよう!		
11月26日(日)	10:00～15:00	体験型イベント
仙台市地域防災リーダー(SBL)有志「カラフル防災ランタンと防災スイーツを作ろう」 身近なものを使った防災グッズ作りや災害時用のクラッカーを楽しくおいしくデコレーションしよう!		
11月26日(日)	10:00～12:00	13:00～15:00
体験型イベント 埼玉県防災学習センター・仙台市「段ボール迷路 ～BOUSAI QUIZ☆ラビリンス～」 クイズを解きながら、迷路を攻略し、景品をゲットしよう!		
1階インフォメーションコーナー		
11月26日(日)	13:00～14:00	ミニプレゼンテーション
13:00～13:15 仙台市立南吉成小学校 4年 堀内 タ太朗くん 2年 堀内 津麦さん 「小学生の僕が今できる「防災・減災」」 13:15～13:30 宮城県多賀城高等学校 「防災減災の取り組み ～都市型津波に備える」震災の記憶の伝承と未来への発信～」 13:30～13:45 仙台白百合学園高等学校 「災害時における外国人への支援体制について」 13:45～14:00 特定非営利活動法人東北福祉大学 防災士協議会 Team Bousaisi 「次の自然災害に立ち向かうために学生防災士から伝えていきたい防災活動」		
11月26日(日)	14:15～15:00	15:10～15:55
体験型イベント わしん倶楽部「災害対応カードゲーム「クロスロード」」 カードを使ったシミュレーションゲームをみんなで体験しよう!		

防災を「学ぶ、体験する、考える」みんなのイベント

ぼうさいこくたい

防災推進国民大会 2017

ぼうさいこくたいをもっと楽しむ!

アンケートに答えて、備蓄食料をもらおう!

アンケートテントにアンケートをお持ちいただいた方、
26(日)先着 400 名、27(月)先着 200 名様に
備蓄食とウェットティッシュをセットでプレゼント!
(アンケートテントの場所は P9 参照)



宝探しをクリアして、ピクトグラム・マグネットをもらおう!

「防災×宝探しゲーム ～ピクトグラムと大賢者の秘宝～」
クリアした方、先着 300 名様に、「ぼうさいこくたい
オリジナル ピクトグラムマグネット」をプレゼント。
(受付テントの場所は P10 参照)



11月26日(日)

フードコートでお腹いっぱい!

せんだい青葉山交流広場で、カレーライス、
肉巻きおにぎり、閑上たこ焼き、
明石玉子焼き などなど
おいしいメニューをお召し上がりください!
(有料：フードコートの場所は P10 参照)



先着 150 名様にトートバッグをプレゼント!

TEAM 防災ジャパン「TEAM 防災ジャパン オフラインミーティング<昼の部>」
みなさまがそれぞれ日頃から取り組んでいる防災活動や
防災に関するアイデアを語り合しましょう!
先着150名様にトートバックプレゼント (会場や時間は P10 参照)



11月26日(日)